

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 令和6年9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫最盛期を迎えています。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進めましょう。
- ◆ 牧 草 刈り取り危険帯の時期が近づいています。この時期は収穫や施肥を避けましょう。
- ◆ 家 畜 飼 養 秋に増える牛の疾病に注意しましょう。

1 飼料用とうもろこし

- （1）黄熟期に到達している圃場は、速やかに収穫します（収穫適期の詳細については、8月29日発行の農作物技術情報第6号を参照してください）。熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、また全体の水分がやや低くなりますので、家畜の消化率とサイロへの詰込み密度を高めるため、収穫時の切断長を10mm未満とします。なお、コーンクラッシャによる破碎処理を行う場合は、切断長を19mmとし、ローラーの間隙を黄熟期5mm、黄熟期以降は3mmとします。
- （2）過度の刈り遅れやすす紋病等の病害発生、霜にあたったとうもろこしは、水分含量が低く、貯蔵期間中のカビの発生やサイレージの開封後に好気的変敗が起こりやすくなります。このようなとうもろこしを詰め込む際は、ギ酸やプロピオン酸など添加剤の使用を検討します。また、サイレージを開封するときにカビの有無をよく確認し、給与時にはカビをしっかりと取り除き、併せて給与の際はカビ毒吸着剤の利用を検討します。
- （3）強風等により倒伏した場合は、作業機の走行速度を控えめにしたり、倒れた方向に対して斜め後ろから走らせたりして、作業機の負荷を軽減させて収穫します。また、高刈りして土壌の混入を避け、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質の低下を防ぎます。

2 牧 草

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で気温が低下してくると、越冬のために地下部へ養分の蓄積を始めます。この時期に刈り取りを行うと、牧草が再生して地下部の養分蓄積が不十分となるため、冬季に凍害や雪腐病の影響を受けやすく、越冬株数が減少するなど翌年以降の減収につながります。

このオーチャードグラスの刈り取り危険帯は、日平均気温が5℃以下になる日から遡った約30日間です。年次や地域によって変動する場合がありますが、表1の期間前に刈り取りします。

表1 地域別の刈り取り危険帯の目安（2019～2023年の5か年平均）

	刈り取り危険帯 の目安	参考
		平均気温が5℃以下となる日 (アメダスデータより)
奥中山	10月上旬～10月下旬	10月28日
盛岡	10月中旬～11月中旬	11月13日
久慈	10月中旬～11月中旬	11月12日
江刺	10月中旬～11月中旬	11月16日
一関	10月下旬～11月下旬	11月19日

また、刈り取り危険帯に施肥すると、地下部の養分蓄積が止まり、分けつや茎葉の生長が始まりますので、**施肥も控えます**。窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けます。

3 乳牛の疾病等の予防

秋になり、夏バテの症状が深刻になる場合があります。牛群をよく観察し、疾病の予兆を早めに見つけ適切に処置します。

(1) 周産期疾病の増加と繁殖（受胎）

7～8月に分娩を終えた牛は、9月以降にケトosisや第四胃変位が発症しやすくなります。また、栄養不足から卵子の質の低下や、子宮の回復遅延などにより受胎の遅れが発生する場合があります。これらの牛には、良質粗飼料の優先給与、疾病の回復と粗濃比に留意したエネルギーの充足、ビタミンの補強などの栄養管理を徹底するとともに、卵巣・子宮回復の確認や治療を行い、初回授精が遅れないようにします。

暑熱対策をしっかりと行い、牛の乾物摂取量を確保できた農場では、9月以降に上記の疾病や受胎の遅れが少ない傾向にあります。もし、周産期疾病の発生が多くみられる場合は、来年の暑熱対策を見直します。

(2) 体細胞数の増加

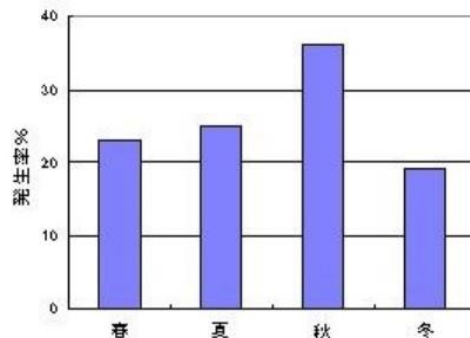
7～8月の暑さで免疫が低下した牛は、秋に乳房炎に罹患し生乳の体細胞数が増加する傾向があります。このため、搾乳作業での前搾り乳にブツ等の異常がないことを確認する、乳頭口をしっかりと清拭する、除糞と敷料で牛床を乾燥・清潔に保つ等の対策を行います。また、粗飼料を十分に与えるなど、栄養の充足により免疫力の回復を図ります。

(3) 蹄病の増加

夏場の飼料の選び食いや固め食いによるアシドーシス、起立時間の増加により、蹄真皮の角質形成不全が秋になって外部に表れ、蹄病（特に蹄底潰瘍）が増加する傾向にあります。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題がある場合は、早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。

宮崎県の研究で、蹄病は春期から発生し、季節が進むにつれ次第に罹患の程度が重くなり、冬季に沈静化する傾向にあると報告されています(図1)。

調査延べ本数438



注) 発生率%は、季節毎に調査した数に対する蹄病数の比率とした

図1 蹄病の季節別発生率

(平成13年度農研機構九州沖縄農業研究センター研究成果情報より)

4 台風対策

例年10月は台風の発生が多い時期となりますので、今後とも気象情報を確認し状況に応じて施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術対策の詳細については、9月20日発行の「号外 台風対策」を参照してください。

次号は10月31日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**ひと休み 急がば回れ 農作業
ゆとり忘れず 安全管理**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

